

Drug Information NEWS

薬がつくる えがお



薬剤部 医薬品情報室（内線7723） Vol. 12 （2011年4月11日発行）

トピックス 麻薬管理について

みなさんは「麻薬」と聞くとどのような印象を持たれるでしょうか？

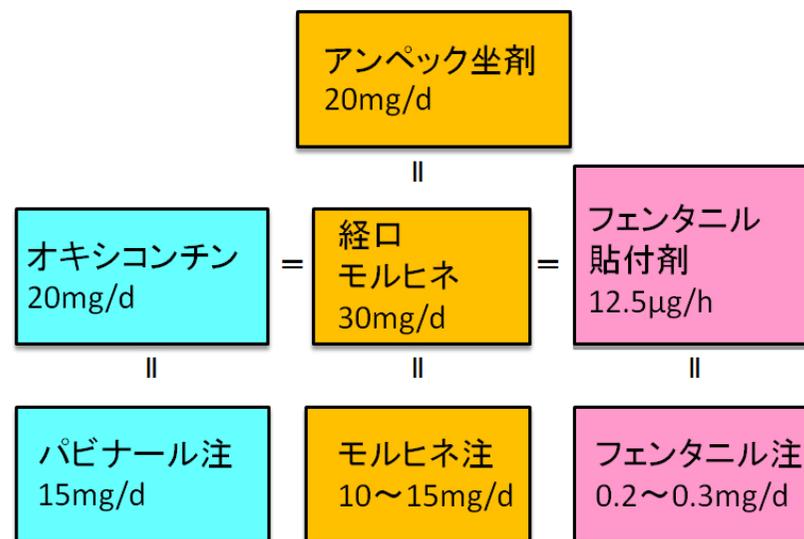
当院での医療用麻薬を取り巻く環境の変化を見ますと 2008 年に緩和ケアチームが発足したこともあり、院内での医療用麻薬の使用量が増加してきました。採用品目数は 5 年前に 21 品目であったのが現在では 37 品目と大幅に増えています。また、共通床の積極的な稼働に伴い以前は麻薬の処方されなかった多くの病棟でも麻薬処方を見かけるようになりました。このように医療用麻薬が身近になる一方で新たな剤形の登場により把握しなければならないことが増えています。

汎用されるオピオイドにはモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルの 3 剤がありますが、各薬剤の性質の違いから投与方法を変更したときや他剤へ切り替える（オピオイドローテーション）際には力価換算と慎重な切り替えが必要となります。緩和ケアが浸透してきたことが大きいかと思いますが、病棟での医療用麻薬の持続静注が増えており大まかにでも換算比と切り替えのタイミングを把握する必要があります。

また、デュロテップ MT パッチの慢性疼痛への適応拡大に伴う同意確認書の取得や処方医には事前の e ラーニングの受講が必要になるなど管理上でも新たな運用が始まっており注意が必要です。

医療用麻薬は痛みを抱える患者さんにとって非常に有用ですが、不適切な管理、使用をされればとたんに社会悪となります。管理・取り扱いについても法律で定められている薬剤なので「知らなかった」では済みません。医療用麻薬が本当に必要な人に適正に使われつつ、臨床現場の負担を最低限にできるよう麻薬の管理を日々考えています。

オピオイド力価表



がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 より抜粋

Staff Interview

薬剤師 熊井 正貴



麻薬管理者と緩和ケアチーム担当を兼任しています。緩和ケアチームではじっくりと患者さんやご家族の思いを聞くために折りたたみの小さなパイプ椅子を持って病棟へ伺っています。写真のような折りたたみの椅子を持って病棟を歩き来している薬剤師がいたら私ですので、麻薬の管理やオピオイドの換算など薬でお困りのことがあればご相談ください。

編集委員：浅野 逸郎、水口 貴史、川岸 亨、笠師 久美子

ご意見、ご感想をお待ちしています kusuri@med.hokudai.ac.jp